



東大寺 212 世別當 筒井寛秀 筆

No.48

2021.1.15

【発行】

奈良県肢体不自由児者父母の会連合会

<https://www.narakenshiren.gr.jp/>

【発行責任者】 前田 妙子

【メールアドレス】

honbu@narakenshiren.gr.jp

ごあいさつ

会長 前田 妙子



明けましておめでとうございます。平素よりご支援、ご協力いただいております皆さま方に対し心より感謝申し上げます。

新しい年を迎えても新型コロナウイルスの感染拡大は止まるどころを知らず、不安な日々が続いております。終息が見えない中、私たちにできることは、ひとりひとりが感染予防をし、お互いを思いやり、できるだけ普通に日常生活を送ることだと思います。

会の活動も、感染予防をしっかりととした上で、今できることを進めてまいりました。その一つとして、全肢連相談事業を九月から十二月にかけて行いました。感染予防の観点から、対面での聞き取りはあまりできませんでしたが、電話やメール、文書での相談数は百件を超えました。相談内容の詳しい分析はこれから進めてまいりますが、高齢の会員さんからの相談が大半を占めていました。親の介護力の低下や腰痛や病気などの健康面の不安、本人の加齢による障害の重度化、親亡き後のこと等、深刻な状況が見えてきます。これは当会の長年の課題であり、高齢

の親にとっては喫緊の課題です。ぎりぎりまで親や家族だけで抱え込まず、平素から相談支援専門員の方などに相談して必要な支援体制を整えることや、リフトや介護ベッドの利用など家庭環境を整えるなど福祉制度をうまく利用して負担を軽減していただきたいと思っています。

あわせて、在宅生活がままならない状況になった時、「どのような暮らしをするのか、したいのか」を考えておく必要があると思います。このことは高齢の親だけではなく、どの親も漠然とですが「自分が介護できなくなったらこの子はどうなるのだろうか」という不安を感じているはずで、在宅以外の暮らし方には、施設入所、グループホーム、共同生活、一人住まい等さまざまな形態がでてきました。しかし、重症心身障害児者のグループホームがない、施設の空きがない、生活を支えてくれる支援者が不足している等、思い通りに選択できる状態でないことも事実です。「本人にとっていい暮らし方はなにか」を考えても考えても直ぐには答えは出ませんし、どの

ような選択をしても正解かどうかもわからないですが「考え続けること」で光が見えてくるような気がします。会員の皆さん共通の課題として、活動を通して考える機会を持つていきたいと思えます。

相談の中には、事業所とのトラブルで相談するところがなく孤独だったという声もありました。父母の会は障害のある子ども親たちの仲間です。いつでも会員さんの困りごとに寄り添って話を聞きたいと思っています。

研修部会では、福祉防災上級コーチの湯井恵美子さんをお迎えして「誰一人取り残さない福祉×防災×コミュニティ」の研修会を開催しました。命を守るために逃げる大切さ、仲間の確保、地域とのつながりなどたくさんのヒントを学びました。この研修で学んだことを生かして会員の皆さんと協力して「誰一人取り残さない」体制を作っていければと思います。

今年の干支は「辛丑」（かのとうし）です。「辛い」ことが多いだけ、大きな希望が芽生える年になる」という意味だそう。コロナ禍の今が辛い時とすれば、その先には大きな希望が芽ばえると信じ、会員の皆さんとともに活動してまいります。今年もどうぞよろしく願います。

父母の会に寄せて

奈良県福祉医療部障害福祉課

課長 東川 富成

新年あけましておめでとうございませう。

前田会長様をはじめ、奈良県肢体不自由児者父母の会連合会の皆様には、平素から奈良県の障害福祉行政の推進に深いご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症拡大が長期化する中、障害のある方が感染や感染疑いとなる不安や、ご家族の方が感染し不在となることへの不安等、様々なご不安をお持ちのことと思います。県においては、コロナ禍においても障害のある方やご家族、介護者の方が地域で安心して生活を送ることができるよう、入院・療養体制の整備、障害福祉サービス継続のための感染予防対策、在宅障害児者の支援体制について市町村等関係機関とともに取り組んでまいりました。今後も最新の情報をもとに、状況に応じた適切な支援策を継続、検

討してまいります。

さて、このような状況下ではございますが、長年構想を続けておりました「奈良県重症心身障害児者支援センター」を一月に田原本町の県障害者総合支援センター内に開設いたしました。開設に至るまで、前田会長様、父母の会の皆様をはじめ関係者の方々のご支援、ご尽力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

県重症心身障害児者支援センターには専門相談員を二名配置し、福祉・医療両面から広域的・専門的に相談に応じ、関係機関の連携・調整、人材育成等を行うことにより、身近な地域における相談支援体制の構築をサポートします。また、重症心身障害児者・医療的ケアの必要な方とご家族に、保健、医療、福祉などの関係機関が適切に連携を図り支援が行えるよう、取り組んで参る所存でございます。

併せて、重症心身障害児者・医療的ケアの必要な方が日中通える場所や、介護者の負担軽減となる医療型短期入所事業所等を、特に不足している県中部・東部・南部に確保する取組を推進して参ります。これらの、重症心身障害児等の地域生活の支援に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため県条例の制定に向け、ご意見を

いただきながら検討をすすめてまいります。

奈良県肢体不自由児者父母の会連合会の皆様には、今後ともより一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



養護学校より

子どもたちからの贈り物

奈良県立奈良養護学校

校長 平井 克季

奈良県肢連の皆さまには、日頃から本校教育の充実のためにご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

私は毎朝、子どもたちが登校してくる様子を迎える時間が大好きです。とびきりの笑顔、じつと視線を向けてくれる顔、たまには、眠そうな顔・・・一人一人が自分らしく、学校へ来た喜びを表現

してくれています。子どもたちと一日のスタートを共有できることに、寒い日でも気持ち温かくなります。今年は新型コロナウイルス感染症の対応でしばらく登校できない日々が続きました。六月に子どもたちが久しぶりに学校へ登校できたときには、子どもも、大人も、みんながはじけるような笑顔で再会したことが印象的でした。やっぱり、子どもたちにとっても教員にとっても「学校」や「なかま」はかけがえのない存在であることを改めて感じました。

「佐保の川辺に」と、校歌の歌い出しにもあるように、春には桜並木が美しい佐保川ぞいのこの地に、昭和五十五年四月、開校した本校が、今年度創立四十周年をむかえます。

奈良養護学校にはいつもたくさん仲間がいて、たくさんつながりがありました。

毎日元気に共に学び、成長している子どもたち、本校で学び社会に巣立った卒業生の皆さん、子どもたちとともに喜び支え合った保護者の皆さん、子どもたちとつながり共に成長してきた教職員の皆さん、本校とつながり支えてくださった関係者の皆さん、四十周年にあたり、これらすべての皆さんに感謝申し上げます。

私自身の話で恐縮ですが、奈良養護開校の少しだけ後に、障害のある子どもたちのために何か役に立ちたい、共に成長したいと思って特別支援学校教員の道を選びました。教員生活をすすす中で小さくて弱々しかった子どもたちが、日々成長し、立派な姿を見せてくれることに驚き、感激でした。また、卒業した子どもたちが、卒業後も元気に暮らし、再会時には、とびきりの笑顔で迎えてくれたときには、この上ない喜びを感じました。子どもの成長と共に歩むことができるのは、教員が味わえる素晴らしい経験だと思います。教員生活をおして、実は子どもたちからすばらしい贈り物ももらっていたのだと感慨にふける今日この頃です。

ひとりの願いは、みんなの願いにつながるという世の中の実現が望まれます。本校四十年の歴史を基盤にして、子どもたちや保護者の願いを実現でき、社会の願いにつながるようにと学校一丸となって教育活動に邁進してまいります。今後とも、県肢連の皆さまには学校教育に対して、ご支援、ご協力くださいますようよろしくお願ひ申し上げます。



令和二年度  
さわやかレクリエーション  
事業

◇防災研修会

『誰一人取り残さない』

福祉×防災×コミュニティ

講師

(一社) 福祉防災コミュニティ協会

福祉防災上級コーチ

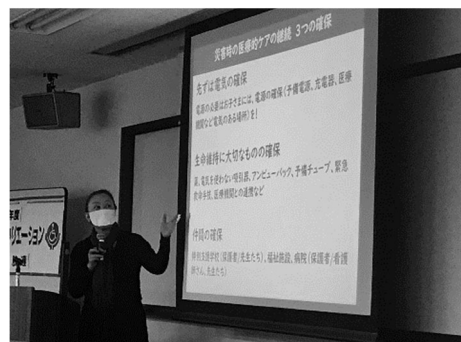
湯井 恵美子氏

場所

奈良県社会福祉総合センター

研修室C

令和二年十一月二十七日(金)



天理市 牟礼 清司

災害被害に於ける防災・避難について研修会を受講しての感想ですが、率直に申し上げて、しんなりかつた事、分らずに居た事が多く有る事に気づかせていただきました。

障害を持つ子の親として日々の生活を送る事に精一杯なのが現状であり、その中で防災・避難に対し、どこか他人事の様を受け止めて居た様な気がしました。

いざと云う時が来れば、行政が何とかしてくれる！ 行政にお願いすれば良い！ そもそも、この街は大きな災害など起きない！ などと、本当の真剣さに欠けて居る事を受講して思いました。

当然、行政の力を全面的に必要としますが、何よりその前に家族や親類で計画をたて、いざ云う時の備えを準備し、良く話し合い、万全で行えるような心がけが必要。又、防災避難に於ける医療的ケアに必要な『生命維持に大切な物の確保』『電気電源の確保』『仲間の確保』に取り組み、家族の安全安心は家族で守るのが大事である事を教えていただきました。

コロナ禍での受講にあたり、お話しくださった講師の湯井先生又、万全の体制を整え準備くださった県肢連本部役員の皆様にご心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

斑鳩町 中村 祐理

研修会『防災への取り組み』に参加しました。とても勉強になり、また色々と考えさせられました。事前準備や防災時避難計画を細かく立てる事が大切で、親が備えておかないといけない事なのだ改めて思いました。そしてやはり地域とのつながりは重要で欠かせないものだと思います。

衝撃だったのは震度六の動画で、家具類が倒れる事は知っていましたが、ベッドに横になっ

る人が投げ出されるとは思いませんでした。ベッド周りに高い家具が無ければ大丈夫だと思っていました。重度障害の息子は物を掴む事も出来ないのです、その子が使う介護ベッドの柵で、はたして投げ出しが防げるのかと心配になりました。また現在、医療施設に入所しているのですが、病室のベッドサイドにはたくさん医療機器があり、手すり等に固定されていないのも多くそれが凶器にならないのかと、これも不安材料になりました。

斑鳩町 田口 美智子

福祉防災上級コーチ 湯井恵美子さんのお話を聞きました。湯井さんはお子さんに重度の知的障害があり、視点が私たちと同じところにあるように思えてお話がよく入ってきました。私自身は、肢体不自由の子供を連れて避難所へ行くことは無理かもしれないと思っていました。自宅が危険であれば、子供の為に安全な避難所へ行くこと。避難所も段ボールベッドやパーティションが使われるようになり以前よりプライバシーが守られるようになったようです。自宅には支援が受けられない

避難所内での不便なことは、運営の方々に力を貸して仲間を作り解決していくことが子供の為になると聞き、勇気はあります。そうかもしれないとおもいました。コロナ禍の今ですが、災害が起こったらコロナは二の次にして（マスクは忘れずに）命を守る。日頃お世話になっている福祉関係者と避難訓練をして子供のことをよく理解してもらい、練習することで災害に対応する力を強くする。子供の通い慣れた支援学校や事業所が避難所として機能できるように、又、福祉避難所へ一次避難所としていくけるようになど行政に伝えていくことも大切。

避難袋には子供に必要なもの、薬等のほかに好きなもの、あると安心するもの（子供の好きなこと、好きなものも書いておく）を自宅の他、実家、友人宅などにお互い預かりあうことも有効。停電の時目印となる蓄光テープの活用、電気自動車を利用する。SOSカード（個別カード）を作り、名前（ニックネームも）、避難先、支援の内容を書いておく、大地震では車椅子や介護ベッドから投げ出されてしまうので手すりなどに固定できるようにする等々、具体的に実行できそうな事を多く教えていただきました。やはりいざというとき助けてくれたのは、ご近所の方や

友人だったという数字が出ており、ご近所付き合いや仲間作りをしてみんなが助かることができるように、準備することが大切だと思います。



**\* 県肢連の今後の取り組み**

- ① 各地域の父母の会の非常時連絡網の作成依頼  
 県肢連が主体となるのではなく、地域ごとに非常時に助け合える仲間を把握していることが大切と考え、各地域父母の会での連絡網（連絡が迅速かつ確実に取れる携帯電話やスマートフォン等でつながっておく）を作成してもらう

- ② オリジナルSOSカード作成  
 親がいなくても子どもを託せるように必要な情報を記入したSOSカードを作成し、会員に備えておくことを推奨する

- ③ 広報誌「道」の防災コーナー  
 防災ワンポイントなどを掲載し、気づきのきっかけづくりをする



# 和 気 あい あい

新コーナー！会員の通う事業所や、会員の生活の様子を紹介します。  
「和気藹々」とお互いのことを伝えあい、思いあえると嬉しいです。



## どんぐりの家

私たち「どんぐりの家」は平成28年4月に移転し新たな建物で5年目を迎えております。少しずつではありますが利用者も増え、また近隣自治会とも良好な関係を築けており、活動内容も個別支援計画を軸にした支援や、外出・イベントへの参加・クッキー作業・販売など日々の活動は盛りだくさんでした。

2月から新型コロナウイルス感染症の流行により様々な制限をうけました。

「どんぐりの家」に来ることができない方や外出・イベント（盆踊り大会）・販売活動の中止、他にも沢山の行事が中止となりました。ただ、コロナ禍でも母たちの力強い協力をいただき菓子類の作成量は減りましたが毎月のクッキー・ケーキ作り作業は継続していました。現在は感染症対策（手洗い・消毒・換気・マスクなど）をしっかりとおこない、馬見公園への外出や田原本町文化祭の参加、学校でのパン販売や磯城郡役場内での販売など少しずつ活動が戻ってきています。感染症はまだまだ予断を許さない状況ですが、しっかりと対応・対策をおこない「いつもの日常」を取り戻せるようみんなで頑張っていきます！

施設長 坂本 憲哲



どんぐりの家

奈良県磯城郡田原本町秦庄 300 番地 TEL0744-32-7398

## 思い出と今

桜井市 谷田 敏世

尚子は、昭和48年6月29日に、双子の姉として生まれました。二人の兄がいたのですごく嬉しかったのです。しかし妹の方はすぐに亡くなりました。又尚子も6日目ころから黄疸が出てきて医大に入院。そこから心配が始まりました。1ヶ月半入院、退院する時に主治医から後遺症が残るかもと言われました。その後、兵庫県こども病院に診察に行き、そこで脳性麻痺で訓練しかないと言われました。すぐ東大寺整肢園へ行き、訓練をした方が良いと言われ入所させることにしました。毎週木曜日の面会と、土、日曜日の外泊をしていました。しばらくすると自分で座って、くるくる回るようになり1年間で退院。その後は、かしの木園に週3回通いました。7歳で養護学校に入学、12年間学校への送り迎えに行ったことや、1年1年の行事や高3の時の修学旅行で馬に乗せてもらった事や、皆様に助けられたことなど沢山の思い出があります。卒業後は、あゆみの広場に週3回通い毎月の行事や2泊3日の旅行、いつでも楽しく過ごしていましたが、平成12年にしばらくなかった発作が起こり意識不明になり平成記念病院に入院、点滴から始まり、その後鼻腔栄養、元気になるとチューブを抜いてしまい大変でした。その後も発作が出ていたので県立リハビリセンターにかわることになりましたが口を開けることができず、胃ろうを勧められました。(チューブをぬいてしまうからです)胃ろうはしましたがやっぱり口から好きなものを食べさせたい思いで摂食訓練をしていただいたおかげで、口から食べる事が出来るようになりました。ありがたい思いでした。退院後はまた、あゆみにもどりました。毎日楽しい思い出が沢山できましたが平成16年に、高円山の麓にある静かな場所に重症心身障害児病院バルツァー・ゴードルに入所することを考えお世話になろうと決心しました。医療の方は熱が出た、発作が出たと言ってはすぐ治療をしていただき、そして尚子にあった訓練や生活面でも職員さんの皆様にお世話になっています。年間の行事や園外学習で人力車に乗せてもらった事や、ぶどう狩りに行った事、沢山の楽しいことがあります。移動支援を使わせていただきイオンに出かけたり、ひかりの森やどんぐりの家の行事にも参加しています。感謝し楽しかった事や、辛かった事、思いはここに書ききれないほどあります。今はコロナで面会は携帯のLINEや施設に行ってはオンラインでしていただいています。早くコロナが治まるのを願っています。ニコニコ元気でいてくれる尚子ありがとう。



## 新しい生活の始まり

大和高田市 東田 玲子



今年の3月に明日香養護学校を卒業した息子は、2カ所の生活介護事業所に通っています。高等部で進路指導を受けているときはことごとく断られて行くところがない状況でしたが、有り難いことに桜井市（週3日）と大和郡山市（週2日）の事業所が受け入れてくださることになりました。息子は10歳頃からぼちぼち歩けるようになりましたが、今も医療的ケアが必要です。重度の知的障害で自閉症でもあり、コミュニケーションに問題を抱えているため自分の気持ちを自傷行動で伝えようとしています。また聴覚障害のため補聴器や手話が必要です。

コロナ禍の影響で自粛生活をしていたので6月の半ばまでは、週に1日や半日の通いでした。今から思うと、自粛生活は新しい生活に慣れるためには丁度よい期間だったかもしれません。家から一歩も出られないなら多少慣れないところでも頑張っていきたいと息子は思ったような気がします。学校で行っていただいていた手立て（見通しがもてる支援、動作法、手話など）を事業所でも継続して行っていただき、ほとんど自傷行動もなく無事に帰ってきています。新しい生活にも慣れ、事業所からスタッフさんとお出かけ出来るまでになり、先日はコスモスを見に行ってきたようです。



毎日の生活の中では自分の思いが伝わらない場面もあります。それは障がいの有る無しに関わらず生きていればどんな日もあります。息子は1日の終わりにヘルパーさんと一緒に入浴し癒しの時間を過ごし、また明日も頑張ろうとなっているのかなあと親は思っています。父親も3月で定年退職をしたので、息子の世話を手伝ってくれています。私は20年ぶりに仕事に復帰し、日々楽しく勤務しています。このように新しい生活を思いのほか順調に過ごさせていただいています。これもひとえ

に学校の先生方の熱心な実習指導とそれを受け入れてくださった事業所の方々のおかげです。息子に日々関わってくださっている皆さま方に厚く御礼申し上げ、私たち家族の新しい生活をも支えていただいていることに心より感謝しています。

## 僕が頑張っている事

斑鳩町 池田 真一

僕が頑張っている事は…サポート24という事業所で働いている事です。

ちなみに副理事長ですが…副理事長になってから、その仕事は一切していません(笑)

きっかけは…自立をして行く上でこれからもお世話になって行くので、何かお手伝いできる事はないかと思い働く事にしました。機関誌とかを作ってます。しんどい事もありますが、やりがいがあるので充実した日々を送っています。絵や物語とかは、趣味なので暇さえあれば書いてます。

困っている事は…一人暮らしをする為のマンションをコロナの影響で探せないことです。本当だっ

たら、一人暮らしをするはずでした。それと…コロナの影響で月例会やキャンプが無い事です。訪問訓練が始まったのですが…永い事、月例会の先生達や子供達にも会えていないので訪問では無く、早くコロナが終息し月例会が開始されて欲しいです。それと、仔鹿会や父母の会のお手伝いもコロナが収束したらしたいです。



『道』第47号で募集した「父母の会シンボルマーク」は、斑鳩町の池田真一さんの作品に決まりました。「優しい気持ちと思いやりの心を持ち合わせた和やかで温かい父母の会」を表現していただいた素敵な作品です。これからホームページやパンフレットなどに利用していきます。お楽しみに！



祝 成人



- 仲川 葵さん (奈良市)
- 永富 太郎さん (奈良市)
- 服部 優里さん (奈良市)
- 山本 陽祐さん (奈良市)

宗教法人円応教 円応青年会様より

令和2年11月10日

159,653円のご寄付をいただきました。  
ありがとうございました。



今後の予定

- ◆映画鑑賞会 (本人部会)  
日にち：2月6日 (土) 13:00～  
場 所：奈良県社会福祉総合センター  
ボランティアルーム
- ◆映画鑑賞会 (会員向け)  
日にち：3月5日 (金)  
場 所：奈良県社会福祉総合センター  
ボランティアルーム
- ◆第16回 南都諸大寺チャリティー墨書展  
日にち：9月11日 (土)・12日 (日)  
場 所：奈良県文化会館 B展示室
- ◆第54回 全国大会  
第58回 関東甲信越ブロック東京大会  
日にち：9月18日 (土)  
場 所：大田区産業プラザ PIO

※いずれの予定も直前に開催を見合わせる場合がございますこと、予めご了承ください。



おめでとうございます

奈良県知事表彰受賞

自立更生者 田倉聖子さん(安堵町)

更生援護功労者 小野弘美さん(桜井市)

編集後記

コロナ禍で例年とは少し違うお正月、いかががすごされたでしょうか？

今回も、お忙しい中ご寄稿くださった皆様、誠にありがとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

奈良県肢連ホームページでは随時、新しい情報を載せております。是非ご覧ください。

ホームページ..

<https://www.narakenshien.gr.jp/>